

2022 年 7 月 5 日

学校法人三幸学園
大阪リゾートアンドスポーツ専門学校
校長 山本 稔 殿

学校関係者評価委員会
委員長 齊藤 貴雄

学校関係者評価委員会実施報告

2021 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①西鶴 和博 (ミズノスポーツサービス株式会社 運営統括管理部プロフェッサー)
- ②濱田 和樹 (特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会 関西支部委員)
- ③関元 崇志 (第 15 期卒業生 株式会社 Globe 代表取締役)
- ④齊藤 貴雄 (学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校大阪キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2022 年 7 月 5 日 (会場 大阪リゾートアンドスポーツ専門学校 図書室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2021 年度 学校法人 三幸学園 大阪リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慧

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西鶴 和博

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・教育理念、目的、人材育成について

コロナ禍における教育理念の生徒・保護者・講師への浸透のため、オンデマンド型の入学前保護者説明会を実施した。

・学校運営について

メディア授業における質の担保と習熟度の向上のため、メディア授業の課題提出方法を変更し、習熟度を確認しながら授業を展開した。

・教育活動

資格検定取得の目的の再確認と試験対策として、資格に対する動機づけのガイダンスを実施した。

・学修成果

コロナ禍において就職支援を強化し、前年度と比較して就職率の向上につながった。

・学生支援

卒業生支援の強化を目的に、コロナ禍で影響を受けた開業・独立した卒業生への支援を実施した。

・教育環境

実習先・ボランティアの確保のため、行政と協力したボランティアの実施を行った。

・学生の受け入れ募集

状況に応じ対面だけでなく、オンラインでのオープンキャンパスを実施した。

・社会貢献、地域貢献

地域の方々に向け学びを提供するため、地域の方々に対する公開講座を実施した。

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・以前より保護者に対して学校の理念・目標を浸透するため入学前説明会を実施していたが、遠方者や都合が合わず参加できない方もおり、広く周知するには至っていない。

② 今後の改善方策

・生徒や保護者に対して、より入学前説明会に参加しやすい環境を設定するとともに、オープンキャンパスや相談会での説明を強化する。
・オンデマンドによる入学前説明会に加え、入学後に担任から電話による直接対話を行い、浸透を図る。

③ 特記事項

・新たに新入生保護者説明会をオンデマンド化し導入した。
・施設訪問を強化し、スポーツ業界や企業の求める人物像の理解に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

課題となっている生徒・保護者への理念浸透についてご意見をいただいた。

< 齊藤委員 >

・通信制高校では毎日の登校が前提ではないが始業式や終業式において「目指すべき生徒像」などを生徒全体に浸透できるよう伝える機会の創出をしている。

< 関元委員 >

・浸透させるため様々なツールを活用しすぎると、情報が分散してしまい逆に浸透しにくくなるリスクもあるため注意が必要。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・出欠管理や経理など学校運営事務の効率化が十分ではない。

② 今後の改善方策

・WEB 出席簿の導入、経費精算システム導入による更なる効率化

③ 特記事項

・メディア授業導入による各種ガイドラインの変更

④ 学校関係者評価委員会コメント

課題となっている ICT 活用についてご意見をいただいた。

＜西鶴委員＞

・ミズノスポーツサービスでは「バスキャッチ」というシステムを導入（子供がカードを読み込むことで保護者にも出席情報が共有されるシステムのこと）している。大阪リゾートアンドスポーツ専門学校でも同様に上記システムを導入することで保護者への情報共有をタイムリーに実施できるのではないかと。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・資格取得に対する生徒のモチベーションに差があり、教員の動機づけの向上が必要
- ・メディア授業における更なる質の担保と習熟度の向上
- ・上位層の生徒を伸ばしていく教育体制の見直しが必要

② 今後の改善方策

- ・在学期間中のロードマップを通して、生徒に今後の資格取得の時期や意義を説明するガイドラインを制定する
- ・対面授業を優先しつつ、メディア授業における授業展開の事例共有と生徒の習熟度を確認する仕組みの構築
- ・授業の習熟度を確認できるアプリケーションの導入
- ・上位層を伸ばしていくために、特別講義を実施していく

③ 特記事項

- ・授業内でオンラインでのトレーニング指導について、集客からレッスンまでを学び実施した。
- ・対面授業とメディア授業を使い分けハイブリッド化した。
- ・初期教育から卒業まで一貫した教育をしていくために、後期よりプロジェクトチームを組み課題解決に向けて進めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

課題である資格取得に向けた動機づけについてご意見をいただいた。

<濱田委員>

- ・資格取得に向けて最低限の技能と知識が必要である。社会に出た際には、資格がないと然るべきステージに立つ資格がない可能性があるため、その重要性を理解させ生徒のモチベーションにつなげられると良い。

<関元委員>

- ・現場では資格取得以上に人間力の向上が必要とされる。人間力の育成においてこういったポイントを重要視しているかを学校・企業双方で共有しながら進めて人材育成をすべきである。人間力が備わっていれば主体的に学ぶ姿勢が身につく、「資格取得」という結果にもつながると考えられる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・上級学年の退学者、人間関係が要因と考えられる退学者の増加
- ・退学の兆候がある生徒の把握と早期のアプローチ
- ・担任のみでは解決が難しい生徒への対応
- ・インターンシップやオンライン面接など、就職活動の多様化への更なる対応
- ・姉妹校間での就職斡旋の連携
- ・卒業生の活躍を把握するにあたり、卒業生対象のアンケートの回答数が少なく正しい情報・数字を把握できていない

② 今後の改善方策

- ・カウンセリングルームの積極的な活用
- ・インターンシップ、実習、在学中のアルバイトの積極的な斡旋により入社前と入社後のギャップを減らす
- ・姉妹校間での就職情報の共有と連携を進める。
- ・SNS を利用した卒業後アンケートを実施することで正確な数字や活動状況を把握する
- ・退学につながる可能性のある生徒に対して、第三者を含めた面談などの早期対応

③ 特記事項

- ・副担任制の継続
- ・就職に関する全国の担当窓口を設定し、姉妹校合同の WEB 説明会を実施
- ・夏期インターンシップの積極的な促しを実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

課題である退学率低減に向けて、ご意見をいただいた。

＜齊藤委員＞

- ・退学率低減のために飛鳥未来高等学校が取り組んでいることとしては、通信制のため毎日の登校が前提ではないため、前回の登校から次回登校まで一カ月近く期間が空くこともある（急に退学の申し出が上がることもある）。したがって担任より電話連絡を入れるなど、こまめに生徒にコンタクトをとることで退学や勉強へのモチベーションの低下の予防をしている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・卒業生がどのような支援を求めているかニーズの把握ができてない

② 今後の改善方策

- ・卒業生に対して SNS を利用したアンケートを実施し、ニーズを把握する

③ 特記事項

- ・ハイパーQU 活用による生徒の学校生活満足度の状況把握を実施
- ・独立開業した卒業生への経済的支援の一環として、授業補助教材動画の作成を依頼し、提供いただいた方へ

の支援金を支給

- ・保護者への電話がけによる家庭との連携強化
- ・卒業後のリカレント教育プログラムの提供(姉妹校連携)

④ 学校関係者評価委員会コメント

課題である卒業生への支援体制についてご意見をいただいた

＜濱田委員＞

- ・卒業生への10万円クーポンの発行などの取り組みは十分卒業生に対して手厚い支援対応といえる。どれだけその仕組みが卒業生に認知されているかが重要。

(学校より)

学校の公式 LINE より卒業生へ情報発信を試みる予定をしている。

＜関元委員＞

- ・情報の分散をしないようにすべきなので LINE 発信は良いと思う。また、卒業生として学校に行くことはハードルが高いため、卒業生の来校ハードルを下げる必要がある。「教員が卒業生に会いに行く」という機会もあるとなお良い。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・コロナ禍の影響による実習受け入れ先の減少
- ・コロナ禍により国内/海外研修が実施できていない

② 今後の改善方策

- ・実習やインターン先の確保、開拓
- ・新型コロナウイルス感染対策を実施しながら国内研修の実施を検討

③ 特記事項

- ・有事に備え、全生徒にキューマスクを配布

④ 学校関係者評価委員会コメント

インターンシップ実習などの企業の受け入れ状況についてご意見をいただいた

＜西鶴委員＞

- ・自社では、基本的に実習は全面的に受け入れをする方向になってきている

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・コロナ禍において、来校できない方向けにオンラインでのオープンキャンパスを実施したが、来校型と比較した際に、伝えられる情報に限りがあり入学後のギャップが発生している可能性がある

② 今後の改善方策

・オンライン(ライブ配信/オンデマンド配信)を活用したオープンキャンパスや相談会を実施し、来校できない入学希望者に対して学校の理念や方針を踏まえ、より深く伝える機会を増やす

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

課題である生徒募集の取り組みについてご意見をいただいた

＜濱田委員＞

・高校生のみならず中学生からスポーツ業界への進路を検討し始める子どももいるため、スポーツ現場で活躍している卒業生から中学生やその保護者に対しても業界の魅力をアプローチできると良いのではないかと考える。そのために卒業生とより積極的にコミュニケーションをとるべきだと考える。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・コロナ禍におけるボランティア活動の減少

② 今後の改善方策

・行政や地域関連企業との連携を図り、ボランティアの機会を獲得していく

③ 特記事項

- ・昨年度に引き続き、地域住民の方を対象とした公開講座を実施
- ・地域の方向けに、オンラインにて生徒の学びを提供する機会を創出
- ・大阪市との連携によりスポーツ大会・イベントにボランティアとして参加
- ・大塚製薬と共同での一般の方に対する運動指導を提供

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

＜齊藤委員＞

飛鳥未来高等学校の体育大会において、9名の大阪リゾート&スポーツ専門学校の生徒に運営サポートをしてもらった。怪我の対応など専門的に学んでいる内容のアウトプットの機会となり、社会貢献にもつながる非常に良い取り組みとなった。引き続き高専接続などにも力を入れて学びの機会を創出していただきたい。

＜西鶴委員＞

同窓会について、教員が中心となり実施するのではなく卒業生が中心となり運営する同窓会ができると、より良くなるのではないかと。

＜濱田委員＞

資格取得について、資格の発行団体主催のセミナーや勉強会などに参加することで、人脈を広げることにつながり、資格のための勉強のみならず様々なメリットがある。積極的に参加を促せると良い。

以上